

東成区職員が 情報不正閲覧

2016.5. 市民2人の住所など

大阪市東成区は17日、窓口業務を担当していた30代の男性職員が業務外で市民2人の個人情報を見計15回にわたって閲覧していたと発表した。外部への情報流出や具体的な

被害は確認されていない。区は2人に謝罪し、処分を検討している。

区によると、職員は2015年11月～16年4月、業務とは関係がないのに住民基本台帳に関する端末のシステムを操作。市民2人の住所や氏名、生年月日などの情報を閲覧した。